

【提案A】 SVCIP

C: 中心概念 「高齢者・主婦・身障者への新雇用」は技術の養成（例：古文書 過去情報の救済）から

- ◆「**技術者**の不足」：仕事量が少ない為、各職人の技術が温存される → 増加できる提案
- ◆「**仕事量**の不足」：高齢者など、座って作業できる仕事量の不足 → 増加できる提案
- ◆「**仕事場・社交場**の不足」（研修の場・コミュニティの場の不足）→ 増加できる提案（予算の捻出）
- ◆「**古文書の消滅**」：「天災・人災」による「消滅・劣化・廃棄」 → 職人技術の養成
- ◆「**古文書の情報**」：各地域が一丸となり「補修・デジカメ撮影」 → **地域興しの基盤**



S: 状況 詳細

- ◆「**技術者の不足**」：仕事量が不足のため、高い賃金構造。
- ◆「**仕事量の不足**」：世界の製造や組立て関連の仕事が「安価・安全・安心」なアジア地域等に発注される。
- ◆「**仕事の場所**」の不足：高齢者・主婦等の共同の仕事場。
- ◆「**社交の場所**」の不足：例）「病院のサロン化」（**社交場**）と兼ねる。国民の医療費負担は**42兆円**を超えて行く。
- ◆「働ける環境」の不足：「働かない・働けない」理由。
- ◆「技術の指導」：無償の指導では既存プロ企業体が廃業。
- ◆「古文書」：は**世界遺産に相当（動画）**と海外学者方から高く評価されるが「天災・人災」で「**消滅・劣化・廃棄**」されている。 状況



I: 具体案 詳細

- ◆【提案 B】技術を**養成させる** 新しい体制
- ◆【提案 C】**国内外から受注** 新しい体制
- ◆【提案 D・E】**仕事場・社交場の提供（予算の捻出）**



- ◆ 高齢者・主婦・身障者で可能な仕事： の提供。
【ヤリがい・楽しい・成長・座れる・非力・地域貢献・休憩の自由】
補修（画）・撮影（画）・撮影（動画）
- ◆「**地域興しの基本**」：「古文書の情報」が**基礎**。「地域特性の再確認」。
- ◆10年後では不可能：**現場（動画）・詳細**



V: 判断 詳細（急務）

- ◆「急増する高齢者」：への「手に職」、「技術者の養成」してゆく仕組みとその実行が急務。
- ◆「古文書の消滅」：「天災・人災」の事前対策としての古文書の救済活動。一度消滅すると記録 情報事体が皆無、取返しがつかない。（事前にデジカメで撮る）

P: 実行計画 詳細

古文書の救済（補修とデジカメ撮影の場合）

- ◆実証実験： 都内近郊の1県で 例）**約1億円の実証実験**。
- ◆2016年： 実証実験、「県の古文書 救済会」を作成。
千葉・埼玉・神奈川等 東京近郊で実証実験を行う。
- ◆長期予算： 例）450億円（5年計画：**90億円×5年**）
- ◆全国規模： 1都1道2府43県 各県知事と民が協力
- ◆2017年から 3～5年計画で全国各県での実行が理想。